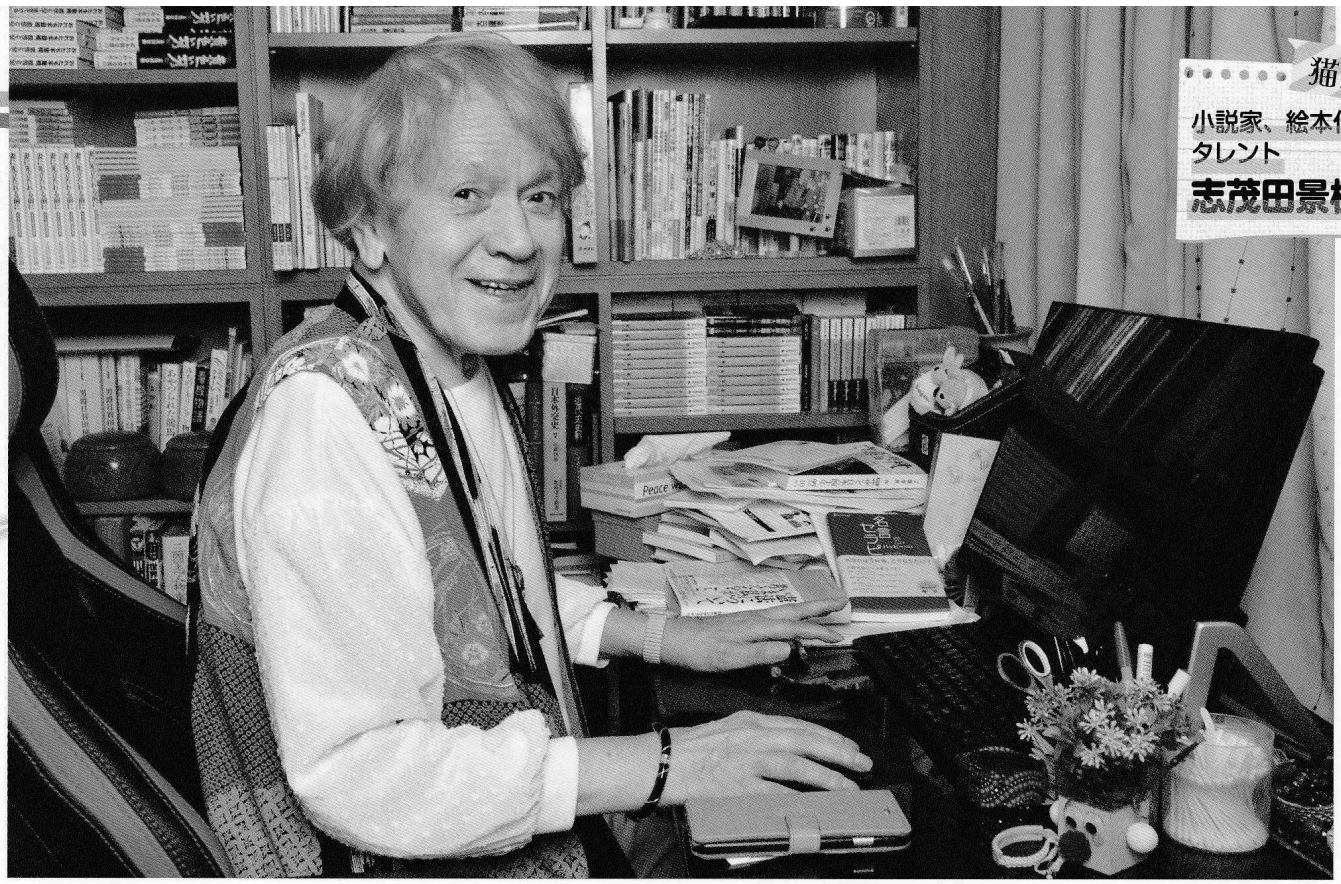


写真／村田三二

猫人04

小説家、絵本作家、タレント

志茂田景樹さん

志茂田流、猫との上手な付き合い方

直木賞作家の志茂田景樹さんは、これまで猫から多くのインスピレーションを得て、作家活動を支えるひとつの原動力としてきた。毎年発売している『猫様のお言葉　卓上カレンダー ネ・コ・ト・バ』でのコラボをはじめ、猫を題材とした作品も多く残している。ツィッターのユーザー名は、"猫"にちなんで「@kagekineko」。悩んだ時、迷った時に深く心に響く名言で、フォロワー数は現在32万人を超えている。

志茂田さんは、子どもの頃から猫に縁があり、一家を構えてからも野良猫やもらい猫と暮らしてきたという。なかでも忘れられないのが黒トラで、アメリカンショートヘアの血統が入ったMOMO。生まれたての1985年から2000年に亡くなるまでの15年間、その生涯を看取った愛猫だ。

「MOMOは放し飼いにしていて、家にはトイレの窓から出入りしていました。メス猫で妊娠したこともあったので、1歳の頃に避妊手術をしました。するとオス猫的な行動をすることが多くなり、スズメやハト、ネズミを取って見せにくるのです。蛇を捕まえて家に引き上げて、生殺しの状態で眺めていることもありました。でも、そのうち鳥を射止めても家の中に運ばなくなり、外縁に羽だけが散らばっていることが多くなりましたけれど」

志茂田さんにとって、MOMOは家族同然。かずかずのエピソードや忘れられない思い出があるという。

「深夜、庭のサルスベリの枝にすわったMOMOが、僕が帰ってきて門を開けると、枝をゆさゆさ揺らして合図。ときには『にゃー』と一声、『遅いじゃないか』と出迎えてくれる。そして、居間でオンザロックなどを飲み直していると、サイドボードの上や、いすから『飲っているね』とチラっと視線を送ってくるんですね」。

「エサの時間になると、MOMOはエサをくれない私には寄ってきませんね。頼るのは、女房と次男。女房が、ドライタイプのエサが虫歯にならないからと与えても一瞥するだけで、好物の『ウエットタイプをちょうだい』と10分でも20分でも鳴き続けるんです。ときには足のアキレス腱を噛んで訴えるので、女房は根負けしてついウエットタイプを与える結果になるんです…」

さらに、MOMOが天国に旅立つ時の思い出も、感動的で忘れ難いエピソードだ。

「長年住んでいた家を壊すという時に、それを察知したMOMOが変な鳴き方をするようになったんです。体調を崩して寝床で寝ていることが多くなり、家を取り壊す前日に僕は外出していなかったけれど、たまたま女房が声をかけたら、ニャーと鳴いてそのあと息を引き取ってしまった。自分の居場所を考えたのでしょうね…」

MOMOと暮らした日々は志茂田さんにとって特別な印象を残し、MOMOからインスピレーションを得た猫が活躍する小説、『MOMOの憂鬱』（KIBA BOOK）も著している。そんな志茂田さんが考える猫との上手な付き合い方は、互いに存在を尊重し合う、ある意味大人の関係。

●志茂田景樹さん　プロフィール
1940年静岡生まれ。中央大学法学部卒業後、様々な仕事を経て作家に。1976年『やっとこ探偵』で第27回小説現代新人賞、1980年『黄色い牙』で第85回直木賞受賞。ミステリー、歴史、エッセイなど多彩な作品を発表。1999年から絵本の読み聞かせ活動開始。2010からツイッター（@kagekineko）を開設。猫をテーマにした長編小説に『MOMOの憂鬱』、ミステリー『孔雀警視と黒猫タンゴの休暇』、エッセイ『猫様のお言葉』がある。

「かまい過ぎると猫の本当の良さが出てきませんね。本当の付き合いが見えてきません。寂しいから、温もりが欲しいからと癒やしを求めて猫を飼うのは、本当に猫に愛情を持っているのと少し違うと思います」

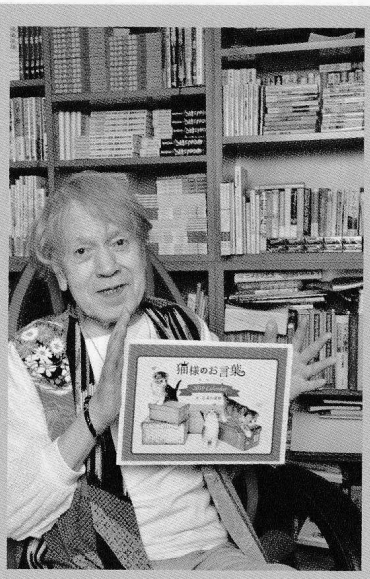
「猫らしい、一種の野生で培われた意志や主張をだんだんわかってくると興味が尽きなくなります。さらに愛情が生まれてくる。お互いが認め合う付き合いの関係が成立してきて、猫との接し方が深くなります」

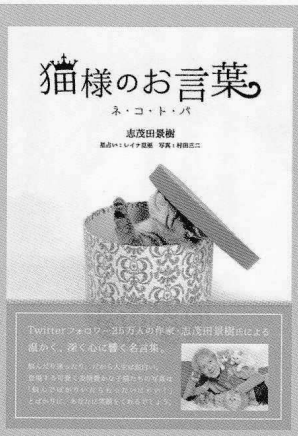
そんな志茂田さんは、猫関連のイベントに参加したり、毎年『猫様のお言葉　卓上カレンダー ネ・コ・ト・バ』で、子猫の写真に自らの経験をふまえた「悩んだ時、迷った時に深く心に響く」書き下ろしのコトバを添えて発信するなど、猫をテーマとした創作活動なども精力的にこなしている。

志茂田景樹ファンとしては、猫が活躍する奇想天外で大胆な発想の新たな作品を期待したいところだ。

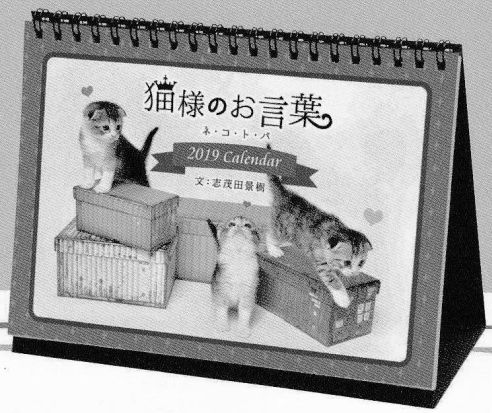
★猫の仕事につきたい人に志茂田先生からひとこと

志茂田景樹先生の座右の銘は、『いまが出発点』。20歳代ならやりたいことがあればやってみること。それがうまくいかなくてもきっと得るものはあります。猫に関わる仕事につきたい人には、「猫を深く理解して仕事をしていけたらいいのではないかな。若い時は自分の夢を叶えたいのならやってみること。人生も終末間際になって後悔しないこと。実は大失敗があったことでその後の人生が積み上げたものになっていくこともあります」





若い人は仕事でも恋愛でも悩むことが多いので、そんな時に勇気づけられたらと、自分の若い時を思い浮かべて毎月の言葉を書きました。例えば7月のお言葉には、「好きな輪にどうぞ／残った輪に私が入るから／運命をともにしようね」。あなたは譲る気持ちを忘れていないかな？譲るという気持ちが膨らむと選択が多くなります。どっちにしようかという狭い考えでなく、譲ると言う謙虚さを出すことで自分の世界が広がっていい結果になることもあるんです。そんなことを迷っている人に贈ります。



お言葉：志茂田景樹／占い：レイナ里亜／写真：村田三二／企画・発行：トップオブハート／定価：1,296円（税込み）
http://nekosama.tokyo/calendar